令和2年度
大阪市NPO・市民活動
企画助成事業

報告書

学習プログラム事例集

まちづくり・市民学習応援コース

子育て・家庭教育応援コース

大阪市教育委員会
大阪市立総合生涯学習センター

は じ め に

社会の急激な変化に対応し、市民が人間性豊かな生活を営むために、現代的社会的課題や、地域社会の課題解決に向けた主体的な学習機会の創出が生涯学習に求められています。

大阪市では、生涯学習を通じて現代的社会的課題に取り組む市民グループやNPOなどを対象に、地域課題解決の学習プログラムを公募し、実施経費の助成や広報、報告会の開催などの活動支援を行うため、「大阪市NPO・市民活動 企画助成事業」を実施しております。

事業の運営にあたっては、実施団体相互のネットワークづくりに留意し、広く事業効果が得られるよう進めるとともに、成果については、区や地域（教育コミュニティ）で活用できるプログラムとしてとりまとめ、プログラムの活用促進を図っております。

今年度はAコース（まちづくり・市民学習応援コース）6団体、Bコース（子育て・家庭教育応援コース）3団体の計9団体に事業を委託しました。

本報告書は、それぞれの団体の取り組みをまとめたものです。本事業が、生涯学習のネットワークの広がりや、市民の生涯学習の新たな展開へとつながることを期待します。

令和3年8月

大阪市教育委員会

大阪市立総合生涯学習センター

令和2年度 大阪市NPO・市民活動企画助成事業 実施団体一覧

まちづくり・市民学習応援コース

団体・グループ名	事　業　名	
ボランティア講座同好会『ひまわり』	「みんなで楽しく学ぼう、防災の知識!ファイナル」事業	… 4
NPO法人農楽マッチ勉強会	農楽マッチ勉強会　梅田セミナー	… 6
特定非営利活動法人子どもセンターあさひ	自分らしく生きる<権利>について学ぼう!	… 8
NPO法人サインポスト	「場」のヒント　OSAKA	…10
生涯学習「地域ICTクラブ」連絡会	地域で「ICTクラブ」を始めるための担い手養成講座	…12
自分史活用推進協議会大阪支部	自分史を知っていただき、体感し、自分らしさを発見してもらう事業	…14

子育て・家庭教育応援コース

団体・グループ名	事　業　名	
こどもフェスティバル実行委員会	こどもフェスティバル～この 👆 と～まれ～	…16
特定非営利活動法人音楽文化芸術振興会	体験型スクール開催による子育て応援について	…18
一般社団法人　あおぞら湯	あおぞら防災ママ認定講座～part2～ 子育て支援者が伝えたい防災「知る!学ぶ!考える」	…20

Aコース

「みんなで楽しく学ぼう、防災の知識！ファイナル」事業

ボランティア講座同好会『ひまわり』

事業のねらい これから30年間に80%以上の確率で発生するといわれる南海トラフ大地震について、地震に関する基礎知識を伝達できる地域のリーダーを育てるための講座・映像視聴・体験型施設見学を開催する。

対象	定員	申込者数	参加者数
どなたでも	20人/各回	32人（大人32人 子ども0人）	32人（大人32人 子ども0人）

1 8/5（水）14:00～15:30
「あなたが防災のリーダーになるために」

講　師　出雲弘紀（防災士/『ひまわり』所属）

会　場　大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室　参加者数　11人

2 8/18（火）13:00～14:00
「リニューアル・オープンした防災センターで地震や津波を体験しよう」

講　師　阿倍野防災センター職員

会　場　阿倍野防災センター　参加者数　8人

3 8/26（水）14:00～15:30
「タイムアタックで身近でできる防災対策を」

講　師　出雲弘紀（防災士/『ひまわり』所属）

会　場　大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室　参加者数　13人

参加者の声

- 防災というと、かたぐるしいお話になりそうな中、ユーモアを交えて楽しく教えていただいた。
- クイズも取り入れ興味をもって受講できた。
- 今まで知らなかったことを教えていただけて良かった。
- 講座を通して防災の意識が強くなった。

学習の総括

■ 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

限られたスタッフ（5名）を2つに分け、見学先（防災センター）の所員と綿密な打ち合わせを行った。スタッフが機能的に各セミナーで活躍できるよう、「受付」「コロナ対応」「誘導」「撮影」など分担を決めて、各人のマニュアル（分刻みの対応事項）により実施した。

事業全体の計画、学習内容・形態について

2回の講座（座学）と施設見学（防災センター）により、学習を踏まえて見学地に出向くことで、より効果的な防災知識が養われた。

地域や他団体・組織との連携について

夏休みの児童や盆休みの家族連れが参加しやすいようにと8月に事業実施を計画したが、コロナ禍のため、小学校の8月授業実施などの影響で、子どもの参加が得られなかった。一方で、目の不自由な方々（付き添いも含む）の積極的な参加があり、オンライン配信では実現できない成果も得られた。

■ 事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

①各回20名定員の予定が、コロナ禍のため、ソーシャル・ディスタンス方式で会場収容人員が18名となり、定員も10名とした。しかし、猛暑日にもかかわらず、8人から13人の参加を得た。②グループでの実施はできなかったが、個々人がゲーム形式の学習に取り組み、楽しみながら防災意識が高まった。③少数精鋭で運営してきたが、グループ員の増強が課題である。

■ 事業実施後の展望

5度目の助成事業において、昨年に引き続きグループ独自の企画により、グループ構成員のみの運営（講師の防災士もグループ員）により、参加者に満足いただける事業が実施でき、さらなる事業実施に自信が持てた。

■ その他

コロナ禍の中で、外部施設（防災センター）の協力もいただきながら、目的が達成できた。平均年齢70歳、5名のメンバーのため、オンライン講座の開催は次回の課題としたが、オンライン講座では参加いただけない目の不自由な方の参加を得て、参加対象「どなたでも」の募集が功を奏した結果となった。

ボランティア講座同好会『ひまわり』

活動目的　大阪市いちょう大学講座受講生有志によるボランティア活動を主体とした親睦

活動紹介　市民活動助成事業
総合フェスタへの紙芝居劇による参加

活動開始時期　2013年4月　団体構成員数　5人　団体HP　なし

Aコース

農楽マッチ勉強会 梅田セミナー

NPO法人農楽マッチ勉強会

事業のねらい 農業に関するテーマでセミナーを行い、農業や地域の問題を共有し、課題解決に寄与する事を目指す。講師にとっては、人前でプレゼンする機会を提供し能力向上を促す。参加する都市住民にとっては、農業や食に関しての知識を深めてもらい自らの生活や事業に活かしてもらう。

対象	定員	申込者数	参加者数
都市住民	40人/各回	71人（大人71人 子ども0人）	81人（大人81人 子ども0人）

1 7/19(日) 13:30～16:30
「①農家が利用できる補助金について」
「②小型野菜栽培システムについて」
「③HACCP最新情報」

講師 ①山本文則(NPO法人農楽マッチ勉強会理事長)
②合田福仁((株)ワールドビジネスネット専務取締役)
③米虫節夫((有)エスケーラボ、大阪市立大学客員教授)

会場 大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室　参加者数 18人

2 9/20(日) 13:30～16:30
「農業に関心をもった経緯と楽農プロジェクト」

講師 山本時嗣((株)ダーナ代表取締役、出版プロデューサー)

会場 大阪市立総合生涯学習センター 第2研修室　参加者数 25人

3 10/18(日) 13:30～16:30
「バイオ炭の製造と可能性」

講師 島田勇巳(高槻バイオエネルギー研究所所長、(有)紋珠代表)

会場 大阪市立総合生涯学習センター 第2研修室　参加者数 12人

4 11/15(日) 13:30～16:30
「えん農フェスについて」

講師 石山(伊藤)靖子、吉田宏栄(えん農フェス事務局)、平井ナナエ((株)RTH、宇宙経営運営)

会場 大阪市立総合生涯学習センター 第2研修室　参加者数 26人

参加者の声

- 本業として農業をしている者ではないので、むずかしい内容だったらどうしようかと思っていましたが、楽しかったです。
- 様々な豊かな発想で、大きな可能性が生まれる事を改めて知った。元気を頂きました。
- 普段と違うセミナーで、新たなキーワードが出てきました。

学習の総括

■ 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

NPOの理事が、集客・広報・受付・運営等それぞれ役割分担を行い、滞りなく行った。

事業全体の計画、学習内容・形態について

7月から12月まで毎月1回の６回開催を予定していたが、新型コロナウィルス感染予防の自粛の為、４回の開催しかできなかった。また、予定していた講師も登壇が難しい方が多く、変更を余儀なくされた。参加者は、熱心にメモを取る方が多く、学習効果は十分であった。

地域や他団体・組織との連携について

参加者は、大阪市以外の兵庫、奈良、京都からも参加頂き、地域の広がりがあった。他団体・組織との連携は、コロナの影響もあり進展しなかった。

■ 事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

講師にとっては、プレゼン能力の向上と自身の振り返りを行う事ができたと好評であった。
参加者は、勉強になった、満足したとのアンケートが多く、評価を頂いた。

■ 事業実施後の展望

コロナの影響でオンラインでのセミナーも増え、リアルでの開催に対する参加意欲が薄れていることを感じた。今後は、オンラインとリアルの差別化を図る事が必要になると感じた。

NPO法人農楽マッチ勉強会

活動目的	農業活性化支援	活動紹介	セミナーやイベントを通して農業の課題やがんばっている農家を紹介		
活動開始時期	2014年2月	団体構成員数	20人	団体HP	http://noramatch.com/

Aコース

自分らしく生きる<権利>について学ぼう！

特定非営利活動法人子どもセンターあさひ

事業のねらい 「子どもの権利条約」の理念を大切に子どもと向き合うということは、自らの権利を大切にし、相手を尊重し対等な関係性を築くことであると考えます。個人の尊重・人権の尊重のためにつくられた<日本国憲法>や、<子どもの権利条約>について学び、自分の権利を大切にし、他者の権利をも大切にできるように学びます。

対象	定員	申込者数	参加者数
①親子・大人 ②大人	①なし ②16人	②33人 （大人22人 子ども11人）	49人 （大人27人 子ども22人）

1 8/20（木）～8/23（日）10:30～16:30
「イラスト展『はじめまして、子どもの権利条約』」

チャーリー・ノーマンさんのイラストを用いたテキストが、スウェーデンが体罰のない社会に大きく変わる画期的な効果をもたらした。そのイラスト展を通して、世界の子どもたちが置かれている現状に思いを馳せ、日本で浸透しきれていない<子どもの権利>について考える。

会　場　子どもセンター　　参加者数　40人

2 10/11（日）10:00～12:00
「憲法×ボードゲーム」

ボードゲームで楽しくあそぶことが、自然と「憲法」を知ることに繋がるように、弁護士が中心となり開発されたボードゲームを通し、「憲法」が身近なものであり、その大切さを体感する。

講　師　小谷成美（弁護士）

会　場　子どもセンター　　参加者数　9人

参加者の声

- 絵についての各々のイメージを話すことから、子どもの権利条約についてや子どもたちの現状に想いをはせることが、考えるきっかけになる気がする。
- 楽しみながら憲法のことを学ぶゲームがとてもいいです。憲法のことも“覚える”というよりは“身につける”という感覚がいいです。人権尊重を感じられる取り組みだと思いました。
- 難しい憲法の文を読むより、わかりやすく身近に感じて入ってきやすかった。

学習の総括

■ 事業実施にあたっての工夫

事業全体の計画、学習内容・形態について

①イラスト展「子どもの権利条約」

当初1日のみの開催を予定していましたが、乳幼児の親子向けの取り組み時にも展示することにし、テーマ（子どもの権利条約）に関心のなかった方々にもアプローチできるようにしました。

地域や他団体・組織との連携について

子どもに関わる活動をされている団体への案内、関係団体によるSNSでのひろがり。

■ 事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

②「憲法×ボードゲーム」

参加されていた小学校の教員の方は、「来年6年生の担当で<憲法>の学習の時に活用したい」と。学校に行きにくかったり・進学しない子も多い地域にあるという、学童の指導員をされている方からは、「なかなか<憲法>を学習するということが難しいだろう子どもたちに、このボードゲームを通して身につけてほしい」との感想・意見がありました。参加者の多くが<憲法ボードゲーム>を購入され、子どもに関わる方・コミュニティづくりをされている方々が、それぞれのフィールドで今回の学びの場が活用される機会となりました。

■ 事業実施後の展望

「子どもの権利条約」のイラスト展を、今後おまつり開催時に展示したり、「憲法ボードゲーム」を<おやこカフェ>が再開した際には遊べるようにするなど、日頃関心のない方々にも知る機会、身近に感じてもらえる場を設けていきたいです。今回のような講義形式でない学習の場はとても好評でしたので、今後も親子で学べる機会を作っていきたいです。

特定非営利活動法人子どもセンターあさひ

活動目的 異年齢の子どもたちが共に育ちあう場とし、週末等を地域の子どもたちに広く開放し、子どもと青年が中心になって、異世代交流を促し、環境・人権・平和・国際協力などについて学び合い、男女参画社会を目指したまちづくりに地域の人たちと共に取り組むことで、子どもと青年の未来をきり開く教育・文化を発展させることを目的とする。

活動紹介
- ○体験学習事業「寺子屋」・「わくわく子どもキッチン」／自然体験「田植え・稲刈り」「キャンプ」
- ○舞台鑑賞事業 年間3回　○学習会／講演会 年間2～3回
- ○地域住民との交流事業 まつり 年間1回
- ○子育て支援事業「リラミック～リラクゼーションリトミック～」 月2回

活動開始時期　2002年5月　　団体構成員数　5人　　団体HP　http://www.kodomo-center.org/

Aコース

「場」のヒント　OSAKA

NPO法人サインポスト

事業のねらい 社会的課題に向き合える場作りの可能性を探るべく、その道の達人をゲストに迎え、様々な 活動経験の中から実践的な「場」づくりや「場」を生かしたイベント等を立ち上げることの楽しさ、難しさを知り「場」の運営・維持のヒントを学ぶイベントになります。

対象	定員	申込者数	参加者数
「場」づくりに興味のある方	15人／各回	19人（大人19人 子ども0人）	4人（大人4人 子ども0人）

1　12/25（金）19:00～21:00
「場のヒント①」

尼崎園田で「がらくた茶房どるめん」の店主として、2018年まで営業されてきたキムさんの地域との関わり、アートプロジェクト、勉強会や市民運動など、場が生み出した様々な活動のお話をうかがい、場づくりのヒントを探ります。

講　師　金成日（元「がらくた茶房どるめん」店主）

会　場　大阪市立総合生涯学習センター　第2研修室

参加者数　1人

2　1/29（金）15:00～17:00
「場のヒント②」

阪神淡路大震災の後に、尼崎の震災復興ボランティアとして発足したNPO法人シンフォニー。仮設住宅でのコミュニティづくりからはじまったNPOの先駆けの活動から場づくりのヒントを探ります。

講　師　山崎勲（NPO法人シンフォニー代表理事）

会　場　大阪市立総合生涯学習センター　第3研修室

参加者数　3人

参加者の声

- 活動の支援者が集まるというだけではなく、地域の中にその場が根付いていくアイデアを次から次に編み出し、アート志向のイベントや、集まってくる人たちの専門性にクローズアップした定期イベントなど、飽きさせない場づくりが勉強になった。
- 場づくりの意識の世代間格差などの解消法の話を聞けてためになった。視点を変えることが大事。

学習の総括

■ 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

他団体との連携という程のことはできていないが、広報協力を依頼した。また大阪市内の公営施設には実際に広報物を持って行き、事業の説明を行いながらの広報協力依頼を行った。

事業全体の計画、学習内容・形態について

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施回数を予算の範囲内で2回に。参加申し込み者からの当日の参加見合わせの連絡が相次ぎ、会場での開催とは別に、動画撮影をして参加申し込み者には動画の閲覧の機会を作りました。事業の形態としては、2時間枠の前半に登壇者の場づくりに関するお話を聞き、後半に質疑応答による具体的な場づくりのヒントを皆で共有するという内容。

地域や他団体・組織との連携について

他団体との連携という程のことはできていないが、広報協力を依頼した。また大阪市内の公営施設には実際に広報物を持って行き、事業の説明を行いながらの広報協力依頼を行った。

■ 事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

参加してくださった方々が地域づくりや場づくりを担う人たちだったので、登壇者の具体的な場づくりのヒントに熱心に耳を傾けておられた。「場」を維持・運営する大きなポイントはまず場づくりを担う者の熱い心、場を作りたいという思いではなく、何をしたいかという活動をメインに考えて場が後から出来てきたキム氏の場のヒントと、災害を通じて見知らぬ者が集まった場所において、強制的な場づくりを余儀なくされたなかで培った場づくりのヒントを共有してくれた山崎氏と違った視点からのお話がこれからの大阪の地の場づくりの課題解決の一助となることは間違いないと思う。

課題としては今回は広報をチラシ配布の形で場づくりの拠点となる公設施設に配架依頼を中心に展開したが、コロナ禍にあって配架した公設施設が閑散としていたなかの実施だったので集客が難しかった。より多様な場づくりなどの市民活動の広報連絡手段の必要性を感じています。またコロナの影響で申込者の参加ができなかったり、開演時間の変更があったりといった諸問題もあった。

■ 事業実施後の展望

形だけのオシャレな場づくりではない、本当の場とはいつの時代でも同じ傾向と同じ問題をはらんでいる。「場」を維持・運営してきた先達の、試行錯誤を聴き、学びとするものを場づくりを担う者たちと共有することはこれからの場づくりにとってとてもプラスになる。そういった場づくりの先達たちのお話を共有していくことは地域課題の解決の一助となることは間違いない。だが、人が集まっての講義形式のスタイルは、現在の新型コロナウイルスの影響下においては不安を帯びての開催なので、参加したくても参加できないなどある。コロナが収束するのを待たないといけない。

■ その他

講義のような教室に人を集めての学ぶ形式以外の形がコロナ禍に置いては特に求められる。オンラインでの参加も含めスタイルを考えることが重要になってくる。

NPO法人サインポスト

活動目的　NPO運営のために必要な専門知識や技術・経験をもって、団体支援をおこないます。広報支援、情報通信技術の活用、イベントなどを通じ、NPO等を幅広くサポートすることでそれぞれの活動を活性化させる。

活動紹介　○NPO事務局支援事業(大阪市、神戸市、西宮市、高槻市)　○應典院コモンズフェスタ コンサート「南無阿弥陀SESSION」(大阪市)　○哲学の汁(神戸市)　○NPO会計勉強会(尼崎市・神戸市で実施)

活動開始時期　2011年7月　**団体構成員数**　10人　**団体HP**　http://signpost.cc/

Aコース

地域で「ICTクラブ」を始めるための担い手養成講座

生涯学習「地域ICTクラブ」連絡会

事業のねらい 営利を目的としたプログラミング教室ではなく、学校でのICT教育を地域住民として補完する地域のICTクラブ活動としての教室運営の姿を参加者と共に探っていく。

対象	生涯学習に関心を持つどなたでも	定員	18人	申込者数	15人（大人15人 子ども0人）	参加者数	13人（大人13人 子ども0人）

1 12/5（土）14:00〜16:30
「オリエンテーション」
●プログラミング概論・言語・構文・開発手順

講師　胡中俊雄（生涯学習インストラクター）

会場　大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室　参加者数　6人

2 12/12（土）14:00〜16:30
「グラフィックプログラミング実習」
●スクラッチ①　●スクラッチ②

講師　胡中俊雄（生涯学習インストラクター）

会場　大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室　参加者数　9人

3 12/19（土）14:00〜16:30
「オンライン講座入門」
●Zoomでミーティングを主催する

講師　宮嶋健人（NPO法人Webディレクター）

会場　大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室　参加者数　10人

4 1/9（土）14:00〜16:30
「グラフィックプログラミング実習」
●スクラッチ③　●まとめ

講師　胡中俊雄（生涯学習インストラクター）

会場　大阪市立総合生涯学習センター 第3研修室　参加者数　6人

5 1/16（土）14:00〜16:30
「フィジカルプログラミング実習」
●マイクロビット①　●マイクロビット②

講師　胡中俊雄（生涯学習インストラクター）

会場　大阪市立総合生涯学習センター 第3研修室　参加者数　6人

6 1/23（土）14:00〜16:30
「フィジカルプログラミング実習」
●マイクロビット③　●まとめ

講師　胡中俊雄（生涯学習インストラクター）

会場　大阪市立総合生涯学習センター 第3研修室　参加者数　4人

7 1/30（土）14:00〜16:30
「まとめ」
●今福地域の教室運営（胡中）
●今後の大阪のICT教育の発展に向けて（金谷）
●終了賞授与（事務局）

講師　金谷一郎（大学客員教授）
胡中俊雄（生涯学習インストラクター）

会場　大阪市立総合生涯学習センター 第3研修室　参加者数　6人

参加者の声

●スクラッチ教材、マイクロビット教材とも聞いたことはあったが触れたことが無かったので小学生や中学生が学校で習う教材内容を知ることができてよかった。
●教材が難しくて、自宅で復習したがやはり直接教えてもらわないと先に進めなかった。
●実際に教室で教材を教える講師担当者と講師補助者、教室運営担当者（受付他の総務）の役割が見えてきた。自分の出来る役割をよく見極めて協力者を募っていきたい。

学習の総括

■ 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

今福地域活動協議会プログラミング教室、五条地域プログラミング教室、南大阪電脳支援集団プログラミング教室と連携した体制で実地見学も交えて事業を実施する体制・組織作りをした。

しかしコロナ禍の地域活動自粛の影響を受け、各プログラミング教室の実地見学が実際上不可能になった。そこで3回の実地見学を実施体制から外し、総合生涯学習センターでの7回の講座実施体制とした。

また、受講者・受講経験者の中から1カ所を選び1日体験プログラミング教室の実施を計画していたが、研修室でのプログラミング実習を充実させることでコロナ禍に対応した事業実施体制・組織作りの見直しをした。

地域や他団体・組織との連携について

当初計画した3つの地域見学はコロナ禍のため実現できなかったが、受講者が今福憩いの家を見学に出かけることができた。

また講座に利用したScratchプログラミング教材やmicro:bitプログラミング教材も今福地活協の「大人のプログラミング教室」の教材を編集して利用させていただいた。さらに受講者も参加して教材の改訂を連携して計画している。

■ 事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

新規地域の現状と課題を受講者が調べてカリキュラムを作成し、続けて教材作成・1日体験教室を実施して振り返りと修正を行うという当初の予定はコロナ禍のために変更を余儀なくされた。企画を立て直し、今福地域の課題解決のために現在実施している「大人のプログラミング教室」の教材内容を受講者に提示した。12時間相当の内容を4時間に圧縮したので受講者によっては消化不良の感もある（アンケートより）。しかし地域課題として子ども向けのプログラミング教室の発展形を受講者が知り、教材内容を考える上で大きな収穫となった。

■ 事業実施後の展望

受講者で自分の地域に教室を確保している方が複数居られるので教室実践を支援していきたい。

生涯学習「地域ICTクラブ」連絡会

活動目的	地域で子どもたちのために学習支援（ICT分野）をしてくれる担い手の発掘と養成	活動紹介	市内で地域活動としてICTクラブを運営している団体が連絡会を結成し協働・広報活動を展開
活動開始時期	2018年4月	団体構成員数	6人	団体HP	なし

Aコース

自分史を知っていただき、体感し、自分らしさを発見してもらう事業

自分史活用推進協議会大阪支部

事業のねらい 自分史は、過去の自分を振り返ることによって自分自身を再発見・再評価することで、未来を自分らしく生きるお手伝いができます。世代や男女の別なく楽しめるのもよい所です。今年度は、自分史を知らない方への認知を広めること、お一人でも多くイベントに来ていただくこと、共感していただくことを目ざします。

対象	定員	申込者数	参加者数
30代以上の自分史に興味がある男女	30人／各回	56人（大人56人 子ども0人）	54人（大人54人 子ども0人）

1 10/24（土）13:00〜16:10 「毎日がおもしろくなる自分史入門」

前半は自分史の魅力についてのトークショー、後半は、思い出の写真を1枚決めておいてもらい、その時のことを書き、グループでシェアする、一枚の自分史ワークショップ。

講　師　河出岩夫（河出書房代表）

会　場　オンライン（Zoom）　参加者数　22人

2 11/7（土）13:00〜17:30 「秋の、おもいで文化祭」

自分史を活用するワーク＆講座。
①みんなで楽しむ「リレー自分史」　②鉄道の思い出を語ろう鉄道自分史
③自分で綴る「会葬礼状」　④「おもひで茶論」へようこそ

講　師　本会会員

会　場　オンライン（Zoom）　参加者数　32人

参加者の声

- 講演会にて自分史の活用法を具体的に説明されていた点がよかった。
- 1枚の写真から当時の思い出や感情がよみがえったり、今ならわかる！みたいな思いの変換ができるところが良いと思いました。
- 初めて会った方ばかりでも、進行とテーマが良いと、オンラインでも、すごく居心地よい時間になると思いました。
- 時間設定などのワークの進め方が参考になった。他の方の発表を聴きながら、自分の思い出が更に広がっていくのを感じた。初めてお会いした方もずっと以前からお会いしていたような気持ちになった。

学習の総括

■ 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

今回の実施にあたり、毎月の対面でのミーティングを、全てオンラインに変えました。オンラインミーティングは集中力が持たず短くなるので、あらかじめ議題を発表しておく、個別の話は終了後にしてもらうなどの工夫をし、確実に話し合いができるようにしました。イベントの準備は、リアルイベントよりも期間に余裕を持たせ、進捗管理をまめに行いました。また、コミュニケーションも、物事の認識を細かく確認するようにして、意識的に、理解の違いや誤解・曲解を避けるようにしました。

事業全体の計画、学習内容・形態について

リアル・オンライン、どちらでも開催できるように考えていたので、どのタイミングでオンラインのみに振り切るかの判断は難しかったです。オンラインなので、学習内容は、「皆が集中できる長さ、簡単で楽しみながら参加できる内容」に重きを置きました。グループワークは、あらかじめ司会進行役を各グループに置き、参加者だけにしないようにすること・全員がシェアできることを大切にしました。実施形態は、1回目は自宅から接続し開催しましたが、PC スペックが足りない、インターネット環境が安定していない、同居する家族の事情などの理由から、自宅開催は難しいと判断しました。そこで2回目は、主催者側は総合生涯学習センターに集まり、コロナ対応をしながら実施しました。インターネット環境がなかったのでWi-Fiをレンタルすることになりましたが、それでも各自が自宅から行うデメリットとリスク回避ができて良かったと思います。

地域や他団体・組織との連携について

コロナ渦のためオンラインとリアルの両方で実施を探っており、他団体との連携までは考えることができませんでした。今後、リアルイベントができるようになった時に考えられるとよいなと思います。

■ 事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

チラシを置いてもらうためにお話をしに行くなどもできず、今回の事業を実施するのに認知・広報活動が限られてしまいました。また、大阪市内の方になかなかアプローチがとれなかったこと、申し込みをしてこられた方々が全国に広がったことで、地域に限定して何か成果があったかと言われると難しいと思います。ただ、ハブとなる口コミ者を生みました。今後、大阪市内の知人友人につないでくれるような人が多く参加してくれていたことに期待したいと思います。また、コロナ終息後に同様のイベントをリアル開催することで、地域へ改めて貢献できると考えます。

■ 事業実施後の展望

コロナ終息が見通せないため、リアルイベントは止めています。その代わり、毎月7 日、オンラインで、「おもいで茶論」という無料のお話会を始めました。小さくても、活動の灯を消さず継続すること、無理はしないことが大切と考えています。

自分史活用推進協議会大阪支部

活動目的	活動紹介	活動開始時期	団体構成員数	団体HP
自分らしく生きる人を増やす、自分史の認知	自分の経験や思い出を語ることや、思い出を書くワークショップを開催	2020年4月	5人	https://peraichi.com/landing_pages/view/jibunshiosaka/

Bコース

こどもフェスティバル ～この と～まれ～

こどもフェスティバル実行委員会

事業のねらい 輝く笑顔のもと、こどもたちが手作りの楽しさ・おもしろさを体験することは、こどもたちの好奇心を刺激し、自ら学ぶ姿勢、探求心・想像力を高めていくものと考えています。また中学生や高校生をはじめとして地域の方々とのふれあいが互いの絆を強めていくものと確信します。そして大人になった時に地域の人々が自分たちのために体験教室を開催したことを思い出し、自らもこどもたちのため、地域のために活動するという循環が形成されることをねらいとします。

対象	定員	申込者数	参加者数
③㊟大阪市在住の小学生	①8人 ②15人 ③32人 ㊟100人	①8人 ②15人 ③46人 （大人42人　子ども27人） ㊟116人	69人 （大人42人　子ども27人） ㊟116人

1 11/1（日）13:00～15:00 「アシスタントボランティア研修」

講　師　石田・大黒・永井・田中・高橋・勝弘

会　場　城東KADO-YAがもよんホール 大会議室　　参加者数　8人

2 11/10（火）13:00～15:00 「一般ボランティア研修」

講　師　永井・大黒・高橋・勝弘

会　場　城東KADO-YAがもよんホール 大会議室　　参加者数　15人

3 12/13（日）10:00～15:00 「作り方教室」

講　師　永井・大黒・高橋・勝弘・石田・室山・田中・浦上

会　場　城東福祉会館　　参加者数　46人

㊟ ～おうちでつくろう～ こどもフェスティバル2020 おたのしみパックのプレゼント

配布者数　116人

参加者の声

- 来年も体験教室に参加したい。
- クリスマスツリーの飛び出すカードを楽しく作った。
- 手作り体験教室に参加しなくてもわかりやすい説明書で簡単に作ることができた

学習の総括

■ 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

「生涯学習で培った知識や技術を子どもたちに伝えることで、子どもたちが手作りの楽しさ・おもしろさを実感し、自ら創意工夫する力をつけ、何事に対しても積極的に学ぶ姿勢・心を育んでいく」という事業の主旨・理念を理解し協力いただける人材の確保に努めた。

実行委員会は、人材や他団体とのコーディネート力を持つ生涯学習推進員を中心に組織するように工夫した。
また、講師には、元幼稚園教諭や子育てサロンの主催者など、子どもとかかわる仕事や活動されてきた方々を配置した。

事業全体の計画、学習内容・形態について

当初の予定では、対面式で子どもたちに手作り体験のコーナーを提供することになっていたが、コロナ禍のためイベント型での事業形態を変更せざるを得なくなり、「おうちでつくろう」を前面に出して、家族と過ごすおうち時間を少しでも楽しんでもらう企画になった。手作りのコーナーも7に絞って、身近な材料でおうちの人と一緒に作ることができる内容にし、それぞれに図や写真入りの説明書を添付した。材料については、宅配便や実行委員の配達で、自宅に届くようにした。

説明書だけでは、製作できない子どもたちには、作り方教室を実施するようにした。事前のスタッフ研修をはじめ、当日の机の配置、教室の進め方、備品の消毒などコロナ対策に気を配った。

地域や他団体・組織との連携について

当初のイベント型では、城東区の「SARUGAKU祭」の実行委員会と協力して、同日開催とする予定だった。手作り教室の開催については、城東地域活動協議会のご厚意により、会場として城東福祉会館を借りる事ができた。
NPO法人SA子ども活動塾には、おもちゃ作りのコーナーを提供していただく予定だったが、イベント型が中止になり、今年度は断念せざるを得なかった。

城東区まちづくりセンターからは、環境学習の一環として「葦で作るふで」の提案もいただいているところである。

■ 事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

- 小学3年生女子（城東区）折り紙・飛び出すカードを体験
  昨年、区役所のイベントに参加したが体験したいものができなかった。今回のような方法だとうれしい。
- 小学2年生女子（城東区）（生後9か月の赤ちゃん連れ）全て体験
  小さい子がいるのでハサミなどを使用するものは全部作りたい。とても楽しかったと喜ばれる。

■ 事業実施後の展望

- 小学3年生男子（福島区）折り紙・飛び出すカード・にじいろアートを体験
  折り紙が得意そうだった。ハサミが大きく硬かったようで使いにくくイライラしていたが、子ども用ハサミを使うと最後までできた。ちょうど良い道具を準備することが大事。

■ その他

- 小学4年生6年生男子（平野区）にじいろアート・ハートのリースを体験
  中学生も次回から参加対象としてほしい。作り方の説明書が親切で簡単に作ることができた。飛行機が1番楽しかった。親子で楽しめた。来年もぜひ開催してほしい。

こどもフェスティバル実行委員会

活動目的	生涯学習で培った知識や技術を子どもたちに伝える	活動紹介	子ども向けの体験教室を各校下で開催		
活動開始時期	2020年1月	団体構成員数	9人	団体HP	なし

Bコース

体験型スクール開催による子育て応援について

特定非営利活動法人音楽文化芸術振興会

事業のねらい 現在、子どもたちを取り巻く環境は、SNSの発達やIT化によって激変しており、自尊意識の低下・コミュニケーション能力の低下、体力・運動能力の低下が問題になっています。当団体では、谷町キッズポップフィルハーモニー楽団を結成し上記問題に音楽活動を通じて取り組んでいますが、楽団員の子どもたちは30名足らずであり、微力です。このことから、夏休みなどを利用し、地域交流を通した体験型スクールを開催し子どもたちのコミュニケーション能力等の問題を少しでも解消し、居場所を作り、子育てを少しでも応援することが狙いです。

対象	定員	申込者数	参加者数
未就学児・小学生・中学生	80人	86人（大人0人 子ども86人）	73人（大人0人 子ども73人）

1 7/23（木・祝）14:30～15:30
「夏のお店を開店しよう！ ～スーパーボール&作った魚を泳がせよう～」

講　師　稲本愛歌　会　場　高津公園　参加者数　13人

2 8/10（月・祝）13:00～14:30
「星空さんぽ」

講　師　井阪あゆみ　会　場　Aスペース　参加者数　25人

3 8/14（金）11:00～12:00
「音遊び de リトミック」

講　師　村尾梓　会　場　Aスペース　参加者数　14人

4 10/31（土）10:00～10:45
「ハロウィーンパレード」

講　師　稲本愛歌　会　場　空堀商店街付近　参加者数　21人

参加者の声

- 学校の自由研究になりそう
- 仮装しながら歩くのが楽しかった
- リズム遊びが面白かった

学習の総括

事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

新型コロナ感染症対策として、「3つの密」を避けて行うことを心掛けた。具体的には、屋内の活動では感染防止対策を徹底している施設を利用し、完全に窓を開けたり、申込者の数に応じて部屋の広さを変更したり、使用する備品はなるべく各自1つずつ使えるように配慮した。また、受付時には体温測定を徹底し、活動終了後の消毒も欠かさず行うこととした。

事業全体の計画、学習内容・形態について

夏休みに計画をしていたが、緊急事態宣言の影響から夏休みの期間が縮小されたため、祝日を利用することにした。夏休みの期間が短いことから、自由研究にも利用出来そうな星の話や星座早見盤の作り方、科学の力を使って魚を泳がせるコーナーを導入。魚を泳がせる方法は参加者の中に知っている子もいたため、知っている子は初めてする子へアドバイスする等、先生と生徒ではなく子どもたち同士のコミュニケーションも重視した。子ども同士が積極的にコミュニケーションを取るきっかけ作りとして、受付も子どもたちが主体となり行うよう取り計らった。

地域や他団体・組織との連携について

新型コロナウイルス感染症の影響により地域のイベントも中止が続く中、地域交流を通した体験型スクールとして商店街でのパレードを実施。ハロウィーンと言うこともあり、地域への宣伝や声掛けを積極的に行い、当日は地域の方に見守られて安全にパレードを行うことができた。また、商店街のあけているお店の人へ子どもたちにお菓子を受け渡してもらうよう協力をお願いすることができた。子どもたちにとって身近でない大人とのコミュニケーションは戸惑うこともあったであろうが、積極的に挨拶やお礼を言う姿を見ることができた。

事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

子どもが屋外で活動している姿を見かけた地域の方々から、「子どもの元気で楽しそうな声が聞こえるとホッとする」という声を掛けて頂く事が多かった。これは、コロナ禍でどことなく人と人とのつながりが減り、特にご年配の方は感染リスクが高いためより孤立している時間が多かったことと関係があると思う。この事業を行い、地域の商店街や公園といった、誰でもが通りがかることが出来る場所で、子どもたちが積極的にコミュニケーションを取ろうと努力する姿が数多く見ることができたのは大きな成果であろう。

今回の募集では、開催場所に比較的近い人の応募が目立った。コロナ禍で子どもを外に連れて行くのには抵抗があるが少しでも楽しい思い出を作らせてあげたい、近場で普段とは違う体験をさせたいといった保護者の意見が目立った。

課題としては、夏休み期間がなかなか定まらなかったことにより、開催日程を決定するのが遅れ、地域への宣伝が狭い範囲になってしまったことである。来年度はコロナの影響がおちついてくれることを期待する。

事業実施後の展望

今回、地域の人々が集まる商店街を利用したことにより、子どもたちの中には「この店よく行く」「こんなお店あったんや～」といった感想を聞くことがあった。商店街という共通の話題から保護者の方との会話が弾んだり、子どもたちの姿を見た地域の方が子どもたちを気にして、地域の子どもが巻き込まれる犯罪の抑止力となることを期待する。

その他

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、通常より意図的に規模を縮小して行うことが多かった。来年度は、より多くの子どもたちが参加できるイベントが行われることを切に願う。

特定非営利活動法人音楽文化芸術振興会

活動目的	活動紹介	活動開始時期	団体構成員数	団体HP
SNS やIT 化の世の中で子供達のアナログ力が低下している中、自尊心、体力、コミュニケーション力、チームワーク、感性を育む	体験型スクール	2013年4月	14人	http://tanimachikids.jp/

Bコース

あおぞら防災ママ認定講座～part2～

子育て支援者が伝えたい防災「知る！学ぶ！考える」

一般社団法人 あおぞら湯

事業のねらい もしもの時の自然災害に対して、防災・減災の知識を得るとともに、共助の意識を持ち、日常の地域生活を送れるママを増やし、子育て世代の地域コミュニティへの関わり合いの意識改革、また地域活動への参加へとつなげる第一歩の活動としたい。

対象	定員	申込者数	参加者数
子育て世帯の方・子育て支援に携わる方	①② 20人／各回 ③④ 30人／各回	25人 （大人23人 子ども2人）	32人 （大人26人 子ども6人）

1 9/12（土）10:00～11:30
「大阪の災害を知る」

～防災意識を高めよう～大阪の災害を知り、今考えるべき災害リスクを想像する。
女性の視点、ママの視点で考える防災について講義と動画教材から学ぶ

講　師　坂本真理（一般社団法人プラスワン防災）　会　場　オンライン　参加者数　18人

2 9/26（土）10:00～11:30
「グループワーク&認定試験」

～乳幼児世帯が被災した際の備えについて学ぶ～前回学んだ災害リスクに対応するための「いざという時の備え」についてグループで話し合う

講　師　坂本真理（一般社団法人プラスワン防災）　会　場　オンライン　参加者数　19人

3 10/17（土）10:00～12:00
「住んでいるまちの防災を考える」

～住んでいるまちの防災を考える・要援護者の防災を考える～オンラインで各地域の防災活動を学び、動画教材で要援護者の防災について視聴

講　師　増田裕子（新東三国地域活動協議会）/平井裕三（中津地域活動協議会）/手話エンターテイメント発信団oioi　会　場　オンライン　参加者数　20人

4 10/24（土）10:00～11:30
「あおぞら防災ママカフェ」

あおぞら湯が5 年目の防災への取り組みと思いを語り、今回までの講座を踏まえてグループワークを実施

講　師　笠井あゆみ（一般社団法人あおぞら湯）　会　場　大阪市立総合生涯学習センター第1研修室　参加者数　24人

参加者の声

- わかりやすく聴きやすいとても良い講座。リアルタイムで受講できなくても録画が見れるのは大変ありがたいからです。
- 備蓄に対する考え方についての講座とても気付きが多くて…多面的に想像しておかなければ本当の備えにならないんだなぁと感じました。
- 参加者交流や復習・テストなど短時間でも切替え集中できる工夫をしてくださったのが、とても良かった。

学習の総括

■ 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

初の試みであるオンライン講座では、あおぞら防災ママ認定講座修了生のスタッフが主となり受講者に向けてZoomの活用法の説明、司会進行をし、最終回のオフラインの講座ではメインファシリテーターに初挑戦した。グループワークでは他のスタッフがファシリテーションをして運営体制を整えた。今年あおぞら防災ママ認定講座の受講者は、オンライン講座でグループワークをしたブレイクアウトルームにてファシリテーションの役割を担うことに挑戦した。また前回は外部にお願いしていた一時保育については、コロナ対策として外部の人との接触を極力なくすべくスタッフの保育士が請け負った。

事業全体の計画、学習内容・形態について

「防災」のみでは身構えてしまう内容ではあるものの、女性防災士の女性目線＆ママ目線のお話と、楽しみながら学べる動画教材を使っての講義、そして、身近な存在である地域の方からの講座、ユニークな活動で注目されている手話エンターテイメント発信団oioiに関わっていただくことで、ハード面よりもソフト面からの防災へのアプローチは理解しやすく、学びやすい内容となった。全4回のうち前半3回をオンライン講座にすることで、コロナ禍で出向くことに躊躇するが防災について学びたい方や、時間を作ることが難しく移動等の時間をなくして受講したい方が気軽に参加できるよう工夫した。オンライン講座を初めて受講する方やオンラインに不慣れな方にも分かりやすくZoomの活用法を説明する時間を設けた。また動画教材を使ったり、オンラインで開催することにより、都合によりお休みをされた方も後日Youtubeで動画視聴することができたので受講生全員が認定試験を受験することができ、見事全員合格し、認定証を授与することができた。最終回のみオフラインにすることで、受講者のコロナ禍における心配や負担を最小限に抑えた上で、最終回は対面でのグループワークと講座のまとめができた。

地域や他団体・組織との連携について

新東三国地域活動協議会副会長と、中津地域活動協議会総務部副部長のお二人を講師として招き、住んでいるまちの防災を考える機会を得る事ができた。一般社団法人プラスワン防災とは継続的な5年目の活動となるが、動画教材を新たに作成してもらい、初の試みでオンライン講座を開催する事で、受講出来る方の地域・年代・役割の幅を広げ、オンラインならではの講座の振り返りや、認定試験やアンケートが実施できるという可能性が見出せた。毎回テーマを変えてお伝えしている要支援者のための防災については、今年度は手話エンターテイメント発信団oioiにより耳が聞こえない人の災害時の困りごとを寸劇で表現することによって、要支援者に必要な防災の新たな気づきを得る事ができた。

■ 事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

新型コロナウイルス感染症による自粛等の影響もあったのか、今年度は親子での参加者は少なかったものの、オンライン講座だったために受講しやすかったという声もあった。また地域で子育て支援をされている方が多く受講できた事は、ママだけではなく支援者にもあおぞら防災ママ認定講座が認知され、信頼されている実感がある。

■ 事業実施後の展望

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、当たり前のことが当たり前ではなくなり、コミュニティ形成がさらにむずかしくなってしまった。そんな中、防災というテーマは有事のための平時からのお付き合いや備えを大切にして過ごすという点で、地域ごとに細やかに展開されていくことが望ましい。今後とも継続的に取り組むべき課題だと再認識した。

■ その他

コロナ対策が各所で求められる中でのこのイベント開催は、細部にわたって考慮を要し、例年通りに満足ができる講座を実施する事が可能だろうかと講師陣やスタッフとミーティングを重ねた。結果、オンラインでも十分に伝える事が可能で、オンラインだからこそのメリットも実感し、その上で最終回に初めて皆さんと対面できた感動は今までの講座では得る事がなかった貴重な経験となった。また一般社団法人プラスワン防災と継続的に5年間活動してきたことによって、私たちあおぞら防災ママが伝えたい防災とは一体何なのかが見えてきて、この取り組みを今後とも継続していくことの重要性を感じた。

一般社団法人 あおぞら湯

活動目的	子育て支援拠点事業・地域連携事業・イベント＆講座企画運営事業
活動紹介	大阪市地域子育て支援拠点事業中津＆豊崎つどいの広場ぐぅぐぅ
活動開始時期	2014年1月
団体構成員数	15人
団体HP	http://aozorayu.com/

大阪市NPO・市民活動 企画助成事業 募集について

大阪市NPO・市民活動 企画助成事業の募集の案内は、総合生涯学習センターのホームページ・SNSや、大阪市内の市民学習センター（阿倍野、難波）・区役所・区民情報センター・図書館等で配架予定の募集パンフレットをご覧ください。

HP：大阪市立総合生涯学習センター
https://osakademanabu.com/umeda/

Facebook：
https://www.facebook.com/sougoullc/

令和2 年度 大阪市NPO・市民活動 企画助成事業 事業実施の流れ

●募集受付 …… 令和2年1月7日（火）～2月29日（土）
●個別相談 …… 令和2年1月7日（火）～随時対応
●有識者会議 …… 令和2年3月30日（月）
●実施団体への説明会 …… 令和2年4月18日（土）※中止（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため）
●事業の実施 …… 令和2年7月1日（水）～令和3年1月31日（日）

【助成団体の取り組み】
- 事業企画・実施の準備
- チラシの作成・広報、受講者募集の受付
- 講座等の実施
- アンケート回収
- 報告書類の作成・提出

【総合生涯学習センターの支援】
- 実施経費の助成（委託対象経費の75%以内で上限20 万円まで）
- 「いちょう並木」や「いちょうネット」への記事掲載などの広報協力
- チラシの配布協力
- 総合生涯学習センターや阿倍野・難波の市民学習センターの会場確保
- 事業実施に向けたアドバイス

●中間交流会の開催 …… 令和2年8月29日（土）
●報告会の開催 …… 令和3年2月6日（土）※中止（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため）

お問い合わせ

大阪市立総合生涯学習センター

〒530-0001　大阪市北区梅田1-2-2-500（大阪駅前第2ビル5・6階）
TEL：06-6345-5004　FAX：06-6345-5019
https://osakademanabu.com/umeda/

開館時間　午前9時30分～午後9時30分（日・祝は午後5時まで）
休館日　毎月第1・第3月曜日/年末年始（12月28日～1月4日）

令和2 年度 大阪市NPO・市民活動 企画助成事業
報告書

編　集　大阪市立総合生涯学習センター
（指定管理者:大阪教育文化振興財団・SPS 共同事業体）
大阪市北区梅田1-2-2-500
ＴＥＬ　06-6345-5004
発　行　大阪市教育委員会
発行日　令和3年8月